
魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 呪いの眼を持ちし少年

にゃんまる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 呪いの眼を持ちし少年

【Nコード】

N0555J

【作者名】

にゃんまる

【あらすじ】

ある日俺は見知らぬ世界に飛ばされた。その世界は魔法と言う力を使う者達が住む所。そんな世界で俺は3人の魔導師と呼ばれる女性と出会った。魔法少女リリカルなのはStrikers 始まります。

オリキャラ設定

名前：如月 零

年齢：16歳

性別：男

備考：本編の主人公。表は極普通の高校生だが、裏では殺し屋をやりながら生活している。8年前に両親を殺され、その時に頭を負傷した事により身体能力がずば抜けている。そして、ありとあらゆる物の動きをスローモーションで、全方位360度見える呪いの眼を持つ。どんなに速い物でも正確に捉え、相手の動きが遅く見え後方すらも見えてしまうので、どれだけの銃弾をどの角度からきても光速で動いても全て遅く見え捉える。だが、呪いの眼を一定時間を超えると理性が抑えきれなくなり、ただの殺戮を楽しむ為の殺人貴になってしまうのが難点である。性格は明るく人なつつこいが、気に入らない者には直ぐに牙を向く。

容姿：腰まで伸びた銀色の髪をくくっている。眼の色は赤色で眼球には六望星が刻まれている。

prolog (前書き)

上手く出来ていないかも知れませんが読んでいただけたら幸いです。

prolog

俺如月 零は今驚いている。それは、さっきまで居た場所とは全く別の場所だからだ。それもそのはず、何せさっきまではとある廃倉庫で密売しているヤクザ達を殺していたからだ。そう、確かこんな現象が起きるほんの少し前だ。

（廃倉庫）

俺はある男に裏取り引きしている二組のヤクザ達を殺してくれと依頼された。報酬額は一億、俺は迷わずその依頼を受けた。ただ殺すだけで一億と言う大金が手に入るのだから断る理由が無い。早速俺はヤクザ達が居る廃倉庫へと向かった。時刻は深夜、明かりはそんなに無く暗闇と言っても言いぐらいだ。歩く事約20分で廃倉庫に到着。情報では相手の数はおおよそ2、30人ぐらいで元傭兵がぶれが数人いるぐらいだ。俺は迷わず廃倉庫の入り口まで行く、入り口には派手な服を着た男が2人いる。そして俺は男2人の前で止まる。すると男2人は俺に気付き睨み付ける。「兄ちゃん。こんな所に何の用だ？」

「サツサとお家に帰ってTVゲームでもしてな。」
などと、笑って俺をあしらう。俺はすかさず腰のホルスターから黒い二丁の銃を抜き男2人に向け発砲。弾は男2人の頭部に命中し男2人は力無く地面に倒れる。頭部からは血が流れ徐々に地面に広がる。

「邪魔だよお前ら」
そう吐き捨て俺は扉を開ける。案の定、二組のヤクザ達は取り引きをしている最中だった。ヤクザ達は俺に気付く事無く取り引きを進めているテーブルの上には白い粉が入った袋と札束が大量に合った。他にも宝石や金塊が床に置いてある。そんな中一人のヤクザが俺にやっとなり付く。

「く、組長扉が。それにガキがこっち見てます」

「あん？ガキなんかサツサと殺つちまえ。」
「やつと気付いたかこいつら、扉開けた時に気付よタコ。」

俺は組長らしき奴を睨む、それに気付いたのか相手は俺を睨み付ける。「おい、兄ちゃん。今直ぐ逃げるなら見逃してやらねえ事もねえ。逃げねえってんなら魚の餌になつてもらうが？」

「うるせえよタコ。いいから全員俺に殺される。心配するな、確実に殺してやるからよ」

「だか奴らは大笑いしている。」

そんなに可笑しいんなら今から見せてやるよ地獄つてやつをよ。

俺は一度眼を閉じ、ゆっくり眼を開ける。そして今手に持っている二丁の銃を構える。

「さあ、楽しい殺人ショーの始まりだ。」

俺はヤクザ達目掛けて走り出す。俺はヤクザ達目掛けて疾走する。

ヤクザ達は俺に銃口を向け一斉に発砲する。だが俺には全て見えている。銃弾が1つ1つ見え全てがスローモーションになり避けるのは簡単だった。ヤクザ達は驚きながらも弾倉を替える間を与える事無く俺は一人ずつ確実に頭部を銃で撃ち抜く。銃では対抗出来ないと考えたヤクザは鞘から刀を抜き俺に向かって来る。俺は銃を腰のホルスターに戻し袖から投擲用のナイフを両手に4本ずつ取り出し、1本ずつナイフをヤクザ達に目掛け投擲。ナイフは心臓や眉間、そして喉に刺さり大量の血を吹き出しながらヤクザ達は倒れる。

残りは組長らしき奴2人に手下達2、3人になった。

「な、何なんだあのガキは！！弾が見えているのか！？ありえねえ！！」

「ありえねえ事なんてねえよ。現に今避けたじゃねえか。」

「ふざけんじゃねえこの化け物が！！」

とがむしやらに銃を発砲する組長と手下達。

化け物で結構だよ。その化け物に今から殺されんだよお前らは「とつとと死ねクス共が！！」

俺は両腰に差している鞘から2本の日本刀を抜き相手目掛けて振り

降ろす。相手の首、頭、心臓を斬る。斬られたヤクザ達は力無く倒れる。

「地獄に落ちたら閻魔によろしく言っといてくれ」

俺は死体にそう言って入り口へと歩き始める。その時いきなり何か
が光だした。振り向くと赤い宝石が浮いている。俺はすかさず銃を
抜き宝石を撃ち抜こうとしたが、時既に遅しで宝石の光は大きくな
り倉庫全体を包み込んだ。そして俺は見知らぬ森の中にいた。

（森）

呆気ない森でじっとしても何も始まらないので森を出ようと歩き始
める俺。その時俺は知らなかった。今俺が居る所は全くの別世界だ
という事に。そしてこれから起こる事件に巻き込まれることを・・・

・・・

prolog(後書き)

まだまだ未熟者ではありますが、応援お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0555j/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS～呪いの眼を持ちし少年

2010年11月20日11時10分発行